

## 2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 義務教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】 道德教育の充実による規範意識の確立		

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	43.8	45.9	48.0	50.0
現況値	39.6% (2016年度調査)	実績値	-	44.7	-	-
目標値	50.0%	達成率	※-	97.4%	※-	-
備考	全国学力・学習状況調査結果	達成度	※-	3	※-	-

  

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	41.8	44.5	47.3	50.0
現況値	36.2% (2016年度調査)	実績値	-	36.5	-	-
目標値	50.0%	達成率	※-	82%	※-	-
備考	全国学力・学習状況調査結果	達成度	※-	3	※-	-

### 3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	教育委員会 義務教育課	道德教育総合支援事業	<p><b>実施目的</b> 本県が目指す、よりよく生きようとする子ども、規範意識の高い他人を思いやることができる子ども及び豊かな人間関係を構築できる子どもの育成に向け、学校における道德教育の充実を図る。</p> <p><b>成果・課題</b> 就学前から高等学校段階までの心の教育の充実のため、道德の教科化対応研修を実施するとともに、小学校での道德教育郷土資料集の活用促進や、中学校拠点校10校で「考え議論する道德」の実現に向けた授業改善等を推進し、道德教育の充実を図った。今後、道德の教科化に伴う課題の解決を図る実践的な研修や、授業の好事例の普及が必要である。</p>
平均			3.0

### 4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

道德の教科化対応研修や、県独自の道德教育副読本の活用促進、学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動等を実施することにより、道德教育の普及が図られるとともに、子どもたちの自立心や主体性、規範意識の向上、郷土愛の醸成を推進した。

## 6 今後の施策推進に向けての課題

道徳の教科化の円滑な実施や、授業の好事例の普及等に取り組むことで、道徳教育のさらなる充実を図る必要がある。また、あいさつ運動、体験活動、特別活動等について、内容の充実や実施上の工夫、指導者の養成等に取り組むとともに、実施の拡大につながる工夫が必要である。さらに、学校における郷土教育を引き続き実施し、郷土岡山を愛する人材の育成に努める。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 生徒指導推進室
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】暴力行為等への対策の推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○小・中・高等学校における暴力行為の発生割合(児童生徒1千人当たり)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	3.8	3.6	3.4	3.2
現況値	5.1件(2015年度)	実績値	5.8	6.0	6.5	
目標値	3.2件以下	達成率	※65.5%	※60.0%	※52.3%	
備考	目標値/実績値で計算	達成度	2	2	2	

3 事務事業評価

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	教育委員会 生徒指導推進室	実施目的	
スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業	成果・課題	SSW等を配置するとともに、スーパーバイザーを委嘱し、1,422件(前年度:1,351件)の事案に対応した。県内を12ブロックに分けて地域に根ざした対応を図ったことで、学校や家庭等への訪問頻度が増え、また、児童相談所等の関係機関と連携した対応や支援により、児童生徒の生活環境の改善や学校復帰につながるケースが増えている。SSWが学校を巡回訪問するなど、派遣方法を工夫し、より早期からSSWによる支援が行われるようにした。	4

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	教育委員会 生徒指導推進室	実施目的	
学級崩壊等早期対応事業	成果・課題	早期から継続的に集中指導員等を派遣して学校の荒れの兆候をつかみ、各種専門家や教育事務所、所管教委等と連携して支援を行い、必要に応じて支援員を配置することで、学校の状況の改善につながっている。学校からの迅速な支援要請を促すとともに、教育事務所や所管教委等と連携した巡回訪問等により課題の早期発見に努める必要がある。	4

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	教育委員会 人権教育課	実施目的	
アプリを利用した匿名によるいじめ等の相談・報告システム活用事業	成果・課題	・スマホ等で気軽に相談できることが、生徒の安心感につながるとともに、教員が把握していない事案についての情報が提供され、早期に対応できている。 ・文字のみでのやり取りであるため、情報量が少なく、状況把握が難しい。また、命に関わる相談の場合、対応する教員の精神的負担が大きい。	1

平均	3.0
----	-----

#### 4 施策達成レベル

2.2	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

#### 5 施策推進による主な成果

県のいじめ問題対策基本方針に基づく対策の徹底、関係機関と連携した支援体制や教育相談体制の整備、教職員研修の充実、スクールソーシャルワーカーの配置及び研修体制強化、早期からの継続的な学校支援、県警と連携した課題の大きい学校への重点的支援等に取り組むことで、学校の荒れの改善が推進されている。しかしながら、暴力行為の発生割合に改善が見られず、取組の徹底が必要である。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

いじめや暴力行為等の問題行動に対して、専門家や関係機関との連携により適切に対処すること、子どもたちの自主的・自発的な活動の充実を図ること、核となって生徒指導を推進する教員を育成することにより、新たな問題行動を生まない魅力ある学校づくりを推進する。  
また、問題行動の未然防止とともに、問題行動を初期段階で確実に捉え、早期の解決に向けた取組を徹底できるよう、教職員のチームとしての対応や関係機関等との緊密な連携などを徹底し、学校における組織的対応の充実を図る必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	警察本部 生活安全部
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】青少年の健全育成・非行防止対策の推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○非行率	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	4.9	4.6	4.3	4.0
現況値	5.7人/年(2015年度)	実績値	3.8	3.4	2.9	
目標値	4.0人以下/年	達成率	※128.9%	※135.3%	※148.3%	
備考	少年人口(10~19歳)1千人あたりに占める刑法犯少年の割合	達成度	5	5	5	

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 男女共同参画青少年課	青少年健全育成推進事業	実施目的 家庭はもとより学校、地域住民、各種団体等が一体となって、青少年の健全育成・非行防止対策に取り組む機運を高める。	5
		成果・課題 2019年度で事業終期であった少年非行防止地域力向上事業によって、実施地区ごとに課題を洗い出し、課題に対する啓発活動等に取り組んだ。実施地区では、学校、地域等が密に連携を図ることができ、参加者からは、継続的に事業を実施したいとの声もあり、事業として一定の成果を得られた。課題としては、昨今問題となっているスマホ・ネット利用について、青少年健全育成・非行防止対策の観点からも対策を講じる必要がある。	
警察本部 警務部	「心と命の教育活動」推進経費	実施目的 小・中学校及び高等学校において、犯罪被害者の遺族等が講演を行い、命の大切さを児童・生徒に直接語りかけることによって、規範意識の向上と、社会全体で被害者を支える意識の醸成を図り、子どもたちが犯罪の加害者にも被害者にもならない社会づくりを推進する。	5
		成果・課題 2019年度中は、小・中学校及び高等学校25校(小学校4、中学校17、高等学校4)において、児童・生徒、教職員、保護者等約5,900人を対象とした「心と命の教育活動」を24回開催(うち1回は中学・高等学校同一開催)した。引き続き、こうした取組を一層推進していく必要がある。	
警察本部 生活安全部	子供の非行・犯罪被害防止対策費	実施目的 少年の規範意識を高めるとともに、子どもを安全な環境の中で健全に育成することができる地域を社会全体で構築するため、少年の非行防止対策や子どもの安全対策に係る支援等の取組を推進する。	3
		成果・課題 少年サポートセンターを中心として、少年相談、継続補導活動等を積極的に実施した。また、警察スクールサポーターによる非行防止教室の開催、通学路等における児童の見守り活動等により、少年の規範意識向上と地域住民の安心感の醸成を図った。引き続き、再犯者率の低減に向けた立ち直り支援活動等による再非行防止対策、低年齢層を対象とした非行防止講話等を強化していく必要がある。	

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
警察本部 生活安全部	少年非行情勢の更なる改善を図るための事業経費	実施目的 「教育県岡山」の復活に向け、2014年度から取り組んでいる学校警察連絡室の取組を継続・発展させ、引き続き、「暴力行為等の問題行動改善」及び「落ち着いて学べる環境の確保」を図る。また、警察官OBによる非行防止教室の開催を促進し、非行防止の基盤となる少年の規範意識向上を図る。	4
		成果・課題 2019年中の県下の非行率は2.9人と、前年に比べて減少したほか、刑法犯少年についても555人と、戦後最少を更新した。引き続き、非行情勢の改善に向け、これまでの学校警察連絡室による取組のスキルを県下全域に波及させて共有を図っていく必要がある。	
平均			4.3

#### 4 施策達成レベル

4.9	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

#### 5 施策推進による主な成果

学校警察連絡室の活動をはじめとする各種対策を推進した結果、2019年中に検挙・補導した刑法犯少年は555人と、前年に比べ95人（14.6%）減少した。また、非行率は2.9人と、前年に比べ0.5人（14.7%）減少し、7年連続で過去最少を更新するなど、着実に改善している。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

県下の非行情勢は改善傾向にあるものの、非行率はいまだ全国ワースト上位であるなど、依然として厳しい状況にある。本県の課題である高い再犯者率や非行の低年齢化を改善するため、教育機関や少年警察ボランティア、保護者等と連携しながら、立ち直り支援活動等の再非行防止対策や、低年齢層を対象とした非行防止教室等を推進していく必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 生徒指導推進室
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】スマホ・ネット対策の推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○スマートフォン等を平日3時間以上利用する児童生徒の割合(小学生)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	5.0	5.0	5.0	5.0
現況値	13.9%(2015年度)	実績値	17.3	18.0	21.2	
目標値	5.0%	達成率	※28.9%	※27.8%	※23.6%	
備考	目標値/実績値で計算	達成度	1	1	※1	

指標名	○スマートフォン等を平日3時間以上利用する児童生徒の割合(中学生)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	10.0	10.0	10.0	10.0
現況値	23.9%(2015年度)	実績値	25.1	27.9	28.6	
目標値	10.0%	達成率	※39.8%	※35.8%	※35.0%	
備考	目標値/実績値で計算	達成度	1	1	※1	

指標名	○スマートフォン等を平日3時間以上利用する児童生徒の割合(高校生)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	15.0	15.0	15.0	15.0
現況値	33.8%(2015年度)	実績値	36.3	41.3	41.0	
目標値	15.0%	達成率	※41.3%	※36.4%	※36.6%	
備考	目標値/実績値で計算	達成度	1	1	※1	

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 男女共同参画青少年課	スマホ・ネット適正利用のための環境づくり事業	実施目的 青少年へのスマホ・ネットの急速な普及により、長時間利用による依存、不適切な使用に起因する犯罪被害、ネット上のいじめなど様々な問題が発生している。これらのスマホ・ネット問題の解決を図るため、青少年・保護者のインターネットリテラシー向上に向けた取組を推進する。	4
		成果・課題 店頭における調査では、青少年が使用するスマートフォン等に係る契約時のフィルタリング利用率は、目標を上回ったが、昨年度と比べると減少した。調査において、保護者からは「操作方法が不安」「SNSが使えなくなるので困る」等の回答があり、フィルタリングに関する保護者の理解が、依然として十分でないことが挙げられるため、今後はフィルタリングに関する理解を深めるための周知の対策が必要となる。	

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
教育委員会 生徒指導推進室	生徒指導上の課題解決に向けた効果的な対応策普及促進事業	実施目的 スマホ等の使用時間の制限など利用に関する適切なルールづくりやフィルタリング機能の活用についての児童生徒の主体的な取組を促進するなど、ネット上のいじめや依存症等から子どもを守る取組の強化を図る。	4
		成果・課題 中学生によるOKAYAMAスマホサミットを開催し、スマートフォン等の使用ルールやネット上のトラブル防止に関するスローガンの採択やCM動画コンクールの実施等、中学生発案の啓発活動を企画するとともに取組事例の収集・普及を図った。スマートフォンやゲーム等を長時間利用する児童生徒の割合は依然として増加傾向にあり、児童生徒や保護者への、スマートフォン等の適正使用に関する啓発を更に進める必要がある。	

平均	4.0
----	-----

#### 4 施策達成レベル

1.6

生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを  
4:1で加味して施策達成レベルを算出

#### 5 施策推進による主な成果

企業等と連携した集中的なスマホ・ネット対策に取り組んだ結果、ネット上のトラブルの未然防止に向けた生徒の主体的な活動や、携帯電話事業者を通じた啓発活動等が促進された。しかしながら、スマホ等の使用時間には改善が見られず、学校・家庭・地域が連携した取組の徹底が必要である。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

子どもを取り巻くスマホ・ネット問題の解決に向け、スマホサミットの参加者の拡大、望ましい生活習慣等の確立に向けた取組や保護者対象の研修会の充実、携帯電話事業者と連携したフィルタリング設定促進の取組等をより一層推進する必要がある。



## 2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 義務教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】より良い社会づくりに参画する人材の育成		

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	45.8	47.2	48.6	50.0
現況値	42.9% (2016年度調査)	実績値	39.6	41.1	-	
目標値	50.0%	達成率	86.5%	87.1%	※-	
備考	全国学力・学習状況調査結果	達成度	3	3	※-	

  

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	22.5	23.3	24.2	25.0
現況値	20.7% (2016年度調査)	実績値	20.2	22.1	-	
目標値	25.0%	達成率	89.8%	94.8%	※-	
備考	全国学力・学習状況調査結果	達成度	3	3	※-	

### 3 事務事業評価

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	教育委員会 生涯学習課	実施目的	
中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業	成果・課題	中高生が地域課題の解決やまちづくりに参画することで、中高生自身の地域に関する興味・関心を高めるとともに、地域の大人の地域づくりへの意欲の向上等につながった。SNS、教育時報、地方紙等での発信とともに、活動発表会を実施し、事業成果を普及することができた。	3
平均			3.0

### 4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

<p>中高生が地域住民等とともに地域の課題解決等に取り組む活動、主権者教育等の実施を通して、子どもたちの社会貢献活動への理解と参加を促進することにより、地域や社会に貢献する態度の育成を推進している。</p>
---

## 6 今後の施策推進に向けての課題

地域に貢献できる人材の育成に向け、各学校での主権者教育やボランティア教育、生徒会を中心とした特別活動等の取組をより一層推進するとともに、中高生が地域の魅力発見や地域課題の解決に参画する取組の普及に向け、市町村等との連携強化を図る必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 保健体育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】健やかな体の育成		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合(男子/小学校)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	5.5	5.4	5.3	5.2
現況値	5.8%(2015年度)	実績値	5.3	7.1	7.2	
目標値	5.2%	達成率	※103.8%	※76.1%	※73.6%	
備考	小学校5年生を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	達成度	4	2	2	

指標名	○1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合(男子/中学校)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	6.4	6.2	6.0	5.8
現況値	7.0%(2015年度)	実績値	6.4	6.3	7.0	
目標値	5.8%	達成率	100%	※98.4%	※85.7%	
備考	中学校2年生を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	達成度	4	3	3	

指標名	○1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合(女子/小学校)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	11.6	11.4	11.2	11.0
現況値	12.1%(2015年度)	実績値	9.7	12.5	11.6	
目標値	11.0%	達成率	※119.6%	※91.2%	※96.6%	
備考	小学校5年生を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	達成度	4	3	3	

指標名	○1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合(女子/中学校)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	22.1	21.8	21.5	21.2
現況値	21.6%(2015年度)	実績値	18.7	20.6	19.3	
目標値	21.2%	達成率	※118.2%	※105.8%	※111.4%	
備考	中学校2年生を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	達成度	4	4	4	

3 事務事業評価

教育委員会 保健体育課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	食育スタンダード普及推進事業	<b>実施目的</b> 県学校栄養士会と連携して食育に関する指導内容等を研究するとともに、中核となる栄養教諭による公開授業や実践発表等を通じて各校での取組を促し、食育スタンダードの普及を推進する。	<b>成果・課題</b> 県学校栄養士会に調査研究を委託し、小学校及び中学校の家庭科並びに小学校の学級活動における指導事例を作成するとともに、先進校視察やアドバイザー派遣等を行い、優良実践の拡大を図った。	3

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
教育委員会 保健体育課	みんなでチャレンジランキング	実施目的 体力を計画的に向上させていくために、体育授業の一層の充実を図り、児童生徒一人一人が課題をもって主体的に体力づくりに取り組むことができるようにするとともに、教科外での活動機会の充実など学校の教育活動全体を通じた取組を推進する。	2
		成果・課題 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果分析を行い、課題や取組について市町村教育委員会と情報共有を行うとともに、「みんなでチャレンジランキング」のホームページをリニューアルし、利用者の利便性の向上を図った。	
平均			2.5

#### 4 施策達成レベル

2.9	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

#### 5 施策推進による主な成果

子どもの体力を向上させるために取り組んでいる「みんなでチャレンジランキング」のホームページをリニューアルして利用者の利便性の向上を図り、積極的な活用を呼びかけている。また、県学校栄養士会と連携して指導事例を作成するとともに、先進校視察、アドバイザー派遣等を行い、食育スタンダードの普及推進の取組が進んでいる。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について傾向の分析、対策の検討等を進め、「みんなでチャレンジランキング」等の体力向上への取組を普及促進するとともに、県学校栄養士会と連携した食育の推進により、今後とも「体」「食」の両面から健やかな体の育成を目指していく必要がある。

## 2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 人権教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【推進】人権教育の推進		

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

### 3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	教育委員会 人権教育課	調査事業・指導資料整備事業	<b>実施目的</b> 市町村及び学校における人権教育推進の実情や取組状況を把握した上で、様々な人権教育課題に応じて、活用できる指導資料を整備、作成し、人権教育を総合的に推進する。	<b>成果・課題</b> 県内市町村や各学校の人権教育推進の実情や取組状況が把握でき、人権教育を総合的に推進するための基礎資料となった。また、様々な人権課題に関する啓発視聴覚教材を整備するとともに、各種研修会において指導資料と合わせて紹介し、活用を促した。

平均	4.0
----	-----

### 4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

学校教育においては、各種教職員研修会や市町村人権教育担当者会、人権学習充実拠点校事業等において、「第3次岡山県人権教育推進プラン」が示す人権教育の基本的な考え方や各人権課題に対する取組について周知を図り、様々な人権をめぐる課題等に対する教職員等の認識も広まっている。さらに、人権教育の指導内容・方法等について日々の指導に生かせるように指導資料を作成し、各校に配付した。社会教育においては、住民が、様々な人権問題についての理解と認識を深められるよう各種情報の提供や連絡調整、指導資料の作成、地域における指導者の養成等により、市町村の取組を支援した。

### 6 今後の施策推進に向けての課題

学校教育については、個別の人権課題に対する取組は推進されているが、人権課題を明確にした人権学習の取組が減少してきている。人権学習の指導を通して、教職員も児童生徒も人権意識が高まるように、指導内容・方法の改善を図る必要がある。社会教育においても、住民が日常生活の中に生かせる人権感覚と実践的な態度を身に付けることを目指し、参加体験型の研修を実施する等の取組を更に進める必要がある。

## 2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 男女共同参画青少年課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【推進】困難を有する子ども・若者への支援		

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

### 3 事務事業評価

県民生活部 男女共同参画青少年課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	おかやま子ども・若者育成支援事業	実施目的 ニート、ひきこもり、不登校など、複雑・深刻な問題を抱える子ども・若者に対する支援に向けて、身近な場で相談等を受けられる体制を整備する。	成果・課題 2019年度、協議会未設置の市町村に対して、個別訪問や県南・県北地域での連絡会議での模擬ケース検討や連携を深めるワークショップ、設置済市町との情報交換会の開催を通じて、様々な機関が連携して支援することの必要性を訴え、協議会設置促進に向けた意識の醸成を図った。しかしながら、担当課の調整が進まない、職員不足などの理由から、依然として設置に至らない市町村が多い。	2

平均	2.0
----	-----

### 4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

協議会設置に向けて、実際に支援が必要な案件に対するケース会議の開催や支援を、民間の支援機関とともにモデル事業に着手した岡山市、真庭市と連携して開催した。

### 6 今後の施策推進に向けての課題

様々な困難を有する子ども・若者の支援の充実には、身近な市町村における支援ネットワークである「子ども・若者支援地域協議会」を設置し、重層的かつ継続的な支援を行うことが有効である。実際に支援が必要な案件について、市町村と連携しケース会議を開催したり、連絡会議や市町村訪問を通じ、各市町村の状況把握、情報提供や助言を行っていく必要がある。